

資料 3

令和4年度 水道事業の 概要等について

令和4年度 主な工事予定について

▶ 配水管等布設工事（予定）

配水管布設工事等 総延長 約3.2km

- ・老朽管等の更新、道路改良に合わせて配水管を新設等

▶ 舗装復旧工事（予定）

舗装復旧工事 総延長 約3km

- ・配水管等布設工事実施箇所の舗装を本復旧

予算額4億4,400万円（R3年度予算額5億4,055万円）

▶ 浄・配水施設工事（予定）

ろ過ポンプ更新工事、水源井取水ポンプ等更新工事等

予算額2億円（R3年度予算額4,000万円）

管路の耐震化率

| 年 度 | H30 | R1 | R2 | R3 | R4 |
|--------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 管路耐震化率 (%) | 25.85 | 26.35 | 26.91 | 27.69 | 28.23 |
| 管路整備延長 (km) | 2.93 | 3.21 | 3.93 | 5.26 | 3.40 |
| 布設替の撤去長 (km) | 0.85 | 1.33 | 1.00 | 1.88 | 2.00 |
| 耐震管延長 (km) | 142.74 | 145.95 | 149.88 | 155.14 | 158.54 |
| 管路総延長 (km) | 552.11 | 553.99 | 556.92 | 560.30 | 561.70 |

▶ 「行田市水道事業ビジョン」の目標の達成

目標の1つ「重要給水施設配水管路の耐震化率」において、目標値である「50.0%」を令和3年度工事で達成。（西部配水場から壮幸会行田総合病院）

管路の更新

▶ 更新基準年数

法定耐用年数 管種に限らず 40年

実使用年数に基づく更新基準

鋼管、硬質塩化ビニル管、ポリエチレン管 40年

耐衝撃性硬質塩化ビニル管 50年又は60年（形状による）

ダクティル鋳鉄管 60年、70年又は80年（土質による）

▶ 年間の更新延長

令和3年度末総延長560kmについて平均更新年数60年とした場合、

仮に延長が増加しないとすると、 $560\text{km} \div 60\text{年} = 9.33\text{km}/\text{年}$

年間9km以上の管路布設工事を実施する必要がある。

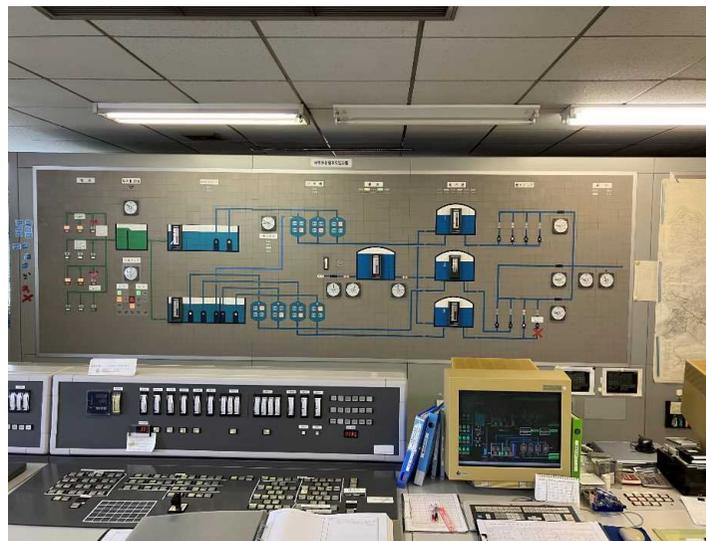
向町浄水場中央監視装置等更新工事

▶ 工事概要

工期 令和3年9月1日から令和7年3月10日まで

請負額 1,154,747,000円

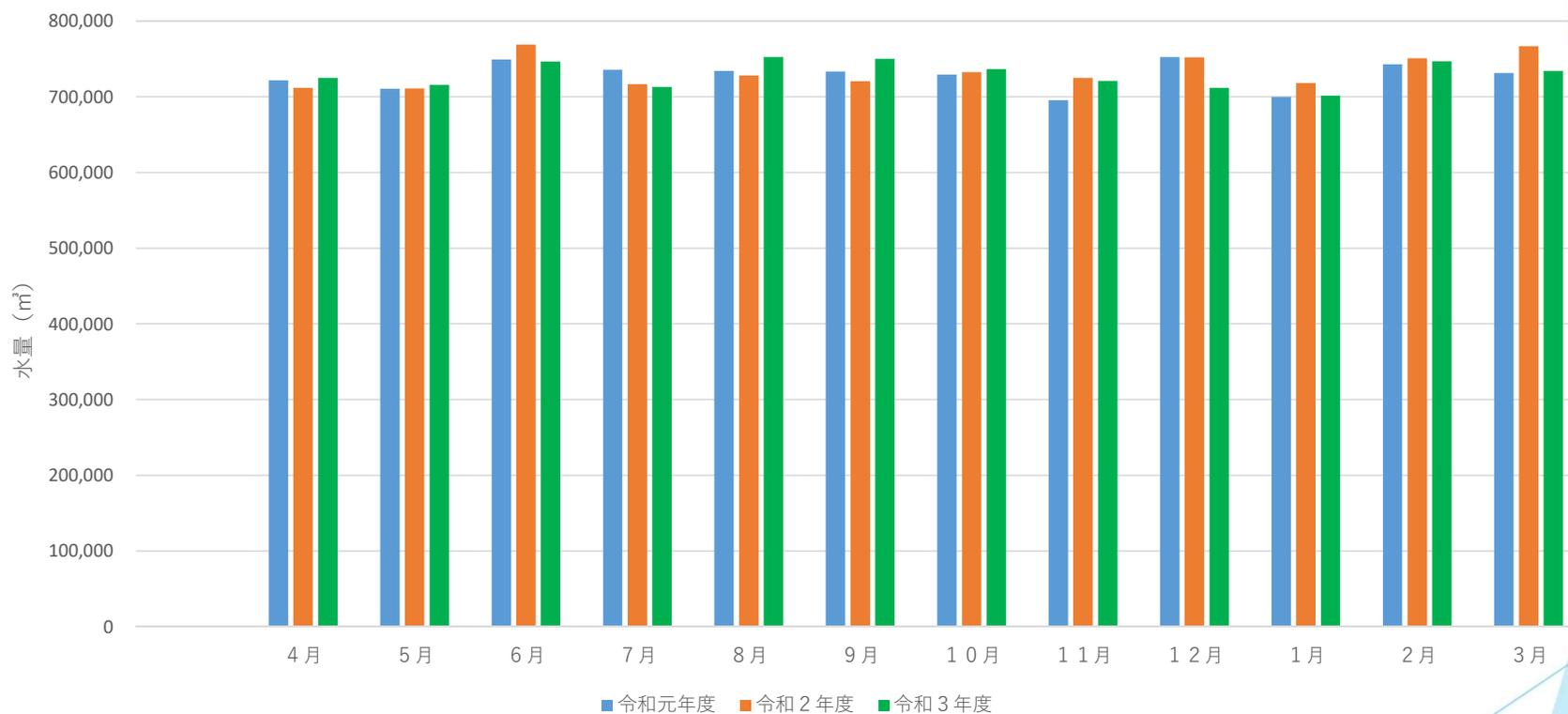
概要 向町浄水場用・場外用監視制御装置、
遠方監視制御盤（南河原浄水場、北部・西部配水場他）
水質監視局（市内6箇所）、取水ポンプ盤機能増設（水源井9箇所）等



※上記の写真は、向町浄水場にある現行の監視装置等です。

月別有収水量の比較

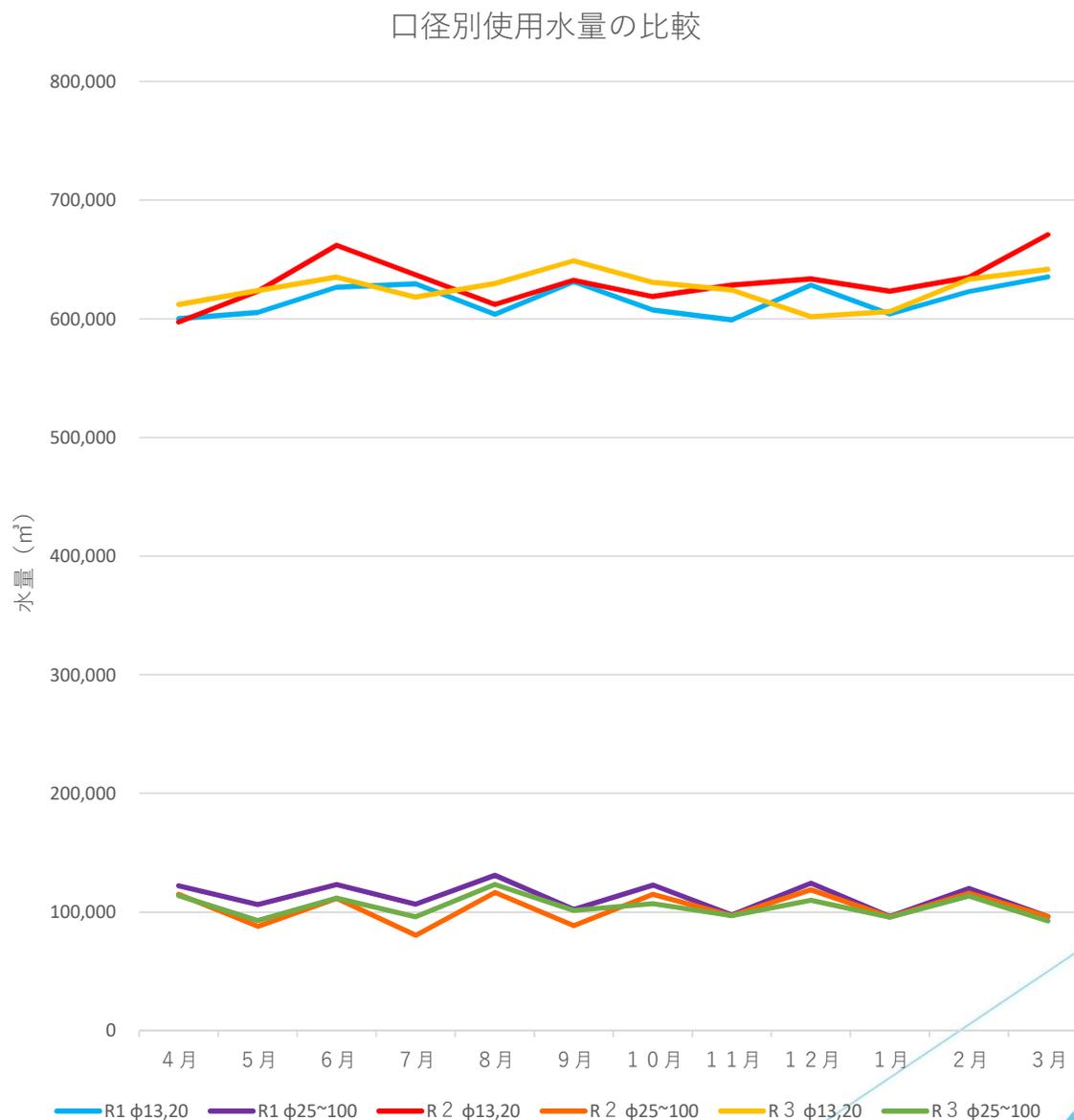
使用水量の比較



- ・年間で有収水量は12,980m³、0.13%の減少
- ・令和3年度は8月、9月が微増。令和2年4月の料金改定の影響はみられない。

口径別使用 水量の比較

- ・令和3年度の小口径の水量は、コロナ禍前に類似
- ・令和3年度の大口径の水量は、令和2年度も含めて、コロナ禍後は減少
- ・奇数月又は偶数月の調定のため、月毎の偏りはある。大口の変化は少ない。



応急給水（災害等における断水対応）

▶ 資機材の備蓄

- 給水車1000ℓ 1台、給水タンク500ℓ 2基
- 給水袋6ℓ 6,000枚
- 簡易水槽 1000ℓ 2基、500ℓ 12基

▶ 断水時の対応

- 停電等の一時的な断水
浄・配水場に設置された発電機により配水を継続
- 規模が大きい漏水
漏水箇所をエリアで配水停止し、修繕するまで応急給水を実施
- 災害等による大規模な漏水、長期間の停電
配水停止し、浄・配水場の配水池から給水車で各避難所等に応急給水を実施